

『山川みかん』を将来に残す！

管内唯一の柑橘法人が挑む、「家族経営」から「雇用型経営」への移行に向けた経営基盤づくり

JAバンク福岡では「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指し、新規就農希望者からベテラン農業者まで幅広い支援を行っています。JA を利用した生産者の「生の声」をお届けします。

担い手コンサル



※地元の『山川みかん』を将来に残したいその思いで管内唯一の柑橘法人を設立

北原社長は、令和元年に先代の父より事業継承。その後、令和3年に地元の特産である『山川みかん』を将来に残すため法人化。現在、大規模果樹経営に取り組んでいる。

※担い手コンサル（※）の導入

・きっかけ

「家族経営」から「雇用型経営」へ移行や生産規模拡大に伴い、労務人件費が急増し、収支を圧迫。そうした中、北原社長は、管内JAで開催されている「組合員大学校」の卒業生でもあり、経営改善に関心が高かったことから、担い手コンサルの導入に至った。

・明らかになった課題

①経験や勘に頼った資金繰り

資金繰り表が作成されておらず、資金の出入りが社長の頭の中で管理されていた。

②労務人件費の負担増

同じ規模の柑橘農家と比較して、労務人件費は高く、作業の効率化を図る必要があった。

③急ピッチな生産規模の拡大

生産規模拡大を進めれば、収支が改善して経営が安定するものと、急ピッチに生産規模拡大を進めていた。

・課題解決に向けた取組み

①資金繰りの「見える化」

現在利用されている会計ソフトの実績データを活用して、月次の資金繰り表を自動作成。北原社長の頭の中で管理されていた資金繰りを見る化し、毎月および将来の資金の出入りを把握できるようになった。

②作業マニュアルの導入

「キウイフルーツ摘蕾・摘果」にかかる初心者向けのシンプルなマニュアルを作成。一日バイトアプリ「デイワーク」の求職者に事前送付。当日の説明時間を省き、労働時間の短縮や作業レベルの均一化を図ることができるようになった。

【キウイフルーツ摘蕾・摘果マニュアル】

【摘蕾】：成り過ぎた蕾を間引くこと
(作業目安時間：1 樹あたり 1 時間程度)

【摘果】：成り過ぎた果実を間引くこと
(作業目安時間：1 樹あたり 5 0 分程度)

③収支シミュレーションの作成・提示

柑橘の隔年結果やライフプランを踏まえた「向こう11年の収支シミュレーション」を作成・提示。ライフプラン実現のために「いつまでに・どの程度生産規模を拡大すべきか」という経営のタイムリミットを共有でき、急ピッチな生産規模拡大から計画的な生産規模拡大への考え方の転換を促した。

※担い手の声

資金繰り表の作成や作業マニュアルの導入等、「雇用型農業」への移行に必要な基礎を学ぶことができ、経営基盤を整えることの重要性を再認識する貴重な機会となった。何より担い手コンサル担当者の「力になりたい」という熱意が伝わり、今後も継続してサポートしていただけることに大きな安心感を持っている。

(※) 担い手コンサル… J A、連合会が一体となり、財務分析や経営者との対話を通じて経営課題を特定し、解決策と一緒に考える取組み。

課題

課題解決に向けた取組み

経験や勘に頼った資金繰り

資金繰り表の作成・活用による資金の流れが見える化

労務人件費の負担増

作業マニュアル導入による作業の平準化・労働時間の短縮

急ピッチな生産規模拡大

ライフイベントを踏まえた収支シミュレーションの揭示による10年後の姿の意識醸成

株式会社北原園芸 代表取締役 **北原 大輔** さま

事業内容

みかん（5品種）とキウイフルーツ（2品種）の生産と販売

- 先代の父より事業を引き継いだ4代目
- 「山川みかん」のブランドを将来に残すため、省力樹形の普及に尽力

